

2018年4月17日
在日米国商工会議所

米国商工会議所アジア太平洋協会、会長に マリー・キッセル ACCJ 副会頭を選出

創立 50 周年を迎えた米国商工会議所アジア太平洋協会（APCAC）の理事会が 4 月 4～5 日にクアラルンプールで開催され、APCAC の新会長に在日米国商工会議所（ACCJ）副会頭のマリー・キッセル氏が選出されたことが発表されました。

アボットのインターナショナル・ガバメント・アフェアーズ シニアアドバイザーであるキッセル ACCJ 副会頭は、アジア太平洋地域の 28 の米国商工会議所で構成される APCAC を率いることとなります。APCAC は 1 万 5000 社の企業、5 万人の在外米国人ビジネスパーソン、合計 1000 万人の労働者を代表する組織であり、加盟企業による同地域での貿易・投資額は年間 7000 億米ドルと推定されます。

キッセル次期 APCAC 会長は、次のように抱負を述べています。「APCAC の新しい会長に選出されたことを大変光栄に思います。そして、これから重要な職務を担うことを思うと胸が高鳴ります。APCAC と加盟する 28 の米国商工会議所メンバーはこのダイナミックなアジア太平洋地域の全域で重要な取組みを行っています。APCAC はアジアでビジネスを行いやすくするためのソリューションの推進に注力しています」

キッセル次期 APCAC 会長は続けて「APCAC の特筆すべき特徴は、アジア太平洋と南アジア諸国に関する専門知識を備えた米国のビジネスリーダーを代表している点、そして各米国商工会議所が現地の政府機関に対してその提言を明確に示す点です」と述べました。

在マレーシア米国商工会議所が主催した 2018 年 APCAC ビジネス・サミットには、12 を超える国と地域からビジネス界、政府、外交、学术界を代表する約 350 名が参加し、「アジアの世紀」と称される時代に同地域が直面する広範な課題について議論しました。

APCAC は、キッセル氏の次期会長への選出に加え、在シンガポール米国商工会議所のエグゼクティブ・ディレクターであるアン・ヨム・スティーラー氏の副会長就任、在香港米国商工会議所会頭のタラ・ジョセフ氏の財務理事就任、在ベトナム米国商工会議所（ハノイ）のエグゼクティブ・ディレクターであるアダム・シットコフ氏の事務局長就任を含む新たな理事会メンバーも発表しました。その他の企業および地域を代表する副会長については、今後数週間以内に発表される予定です。

以上

###

1803 J

－在日米国商工会議所について－

在日米国商工会議所（ACCJ）は、米国企業40社により1948年に設立された日本で最大の外国経済団体の一つです。米国企業の日本における経営者を中心に、現在は1000社以上を代表する会員で構成され、東京、名古屋、大阪に事務所を置いています。日米両国政府や経済団体等との協力関係のもと、「日米の経済関係の更なる進展、米国企業および会員活動の支援、そして、日本における国際的なビジネス環境の強化」というミッションの実現に向けた活動を展開しています。また、60以上の業界・分野別委員会を中心に活動を行い、意見書やパブリック・コメント、白書等を通じた政策提言や、政策や経済の動向等について年間 およそ500のイベントやセミナーを開催するとともに、各種チャリティー等の企業の社会的責任（CSR）活動にも積極的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

APCAC に関する詳細は www.apcac.org をご覧いただくか、info@apcac.org にメールでご連絡ください。ACCJに関するお問い合わせは、ACCJ 渉外室（電話：03-3433-7358；メール：external@accj.or.jp）までお願いいたします。